

イビル・ワームの 生餌にされた盗賊少女

……ルドマー王国の北西部には「深遠の森」と呼ばれる深く広い森がある。ここは未だ人間の手が入っていない未開の土地で、他では絶滅してしまった貴重な動植物が多数生息していることでも知られていた。イビル・ワームと呼ばれる、海洋性軟体動物の蛸に似た、陸上性触体動物もそのひとつであった。

イビル・ワームは「魔物」とも形容される醜惡な姿をした生き物である。大きさは一メートルから三メートルほどで、骨格はなく、胴体もなく、頭部から無数の触手を生やしていて、その数は年数を重ねるごとに増えていくことが判っている。肉は全て筋肉で出来ており、その味は不味くて食えた代物ではないが、人間の身体機能や免疫機能を高める効果を持っており、さらには精力剤としても高い作用をもたらす。そのため、乾燥して粉末状にした物が「薬」として高値で売買されており、その価値は同じ重さの金と同等であった。

このイビル・ワームは「深遠の森」に点在する小さな洞窟や狭い岩影、洞穴などに身を潜めるようにして隠れており、滅多なことでは外へ出てこない。草食性であるため、食事も触手の一部を外に出すだけで事足りるため、身体全体を出すことはほとんどないのだ。そのため、このイビル・ワームを捕獲する場合は「釣り」という手段が用いられることが多い、その場合、「人間の若い娘」が「生餌」として使用されることになる。

それはなぜか。

イビル・ワームは「塩分」を好む。これは体機能と体組織を維持する

ためと考えられているが、定かではない。しかし、イビル・ワームが生息する洞窟や岩場の周辺に塩を撒くと、触手を伸ばして狂ったようにソレを舐めとるため、イビル・ワームにとって「塩分」はある種の麻薬のように作用することは明らかだった。

そこで、イビル・ワームを捕獲する手段として「釣り」が考案された時、最初は塩水に浸した植物が「釣り餌」として用いられた。しかし、塩分を求めて植物に絡みついたイビル・ワームを釣り上げるよりも先に餌を全て捕食されてしまい、この試みは失敗に終わってしまった。そのため、次の手段として家畜や野生動物が「生餌」として用いられた。

動物の血に多量の塩分が含まれていることは周知の事実である。かくして、試みの第二弾として、「餌」となる動物に塩水を塗りたくり、さらには無数の傷をつけて流血させて、イビル・ワームが生息する巣穴の中へと入れ込まれた。だが、この試みも失敗してしまう。イビル・ワームは巣穴に入ってきた動物に襲いかかるどころかむしろ怯えたような行動を取り、より巣穴の奥へと逃げ込んでしまったからだ。これはイビル・ワームが獣を天敵と見なしているからだと思われ、それならばと用意された「釣り餌」の第三弾は「人間」であった。この時代、人間の価値は千差万別で、奴隷や犯罪者、スラムの住人といった人種は、それぞれ家畜以下の存在と見なされており、「人間」扱いされていなかったのだ。

この試みは成功した。「釣り餌」としてイビル・ワームが待つ巣穴へと入れ込まれた人間は、恐怖と緊張から発汗し、ソレを目当てにイビル・ワームが触手を伸ばして巻きついてきたのだ。イビル・ワームに捕まった人間は、恐怖のあまり泣き叫び、失禁までして、より多くの塩分を分泌することになる。すると、イビル・ワームはさらにソレを求めて、強く、より激しく、触手を身体にまとわりつかせてくるのである。そして、より多くの塩分を求めて、身体を締めつけながら各種「穴」の中へと触手を挿入してくるのであった。

かくして「人間」がイビル・ワームを捕獲する際に優秀な「釣り餌」として機能することが判明したわけだが、それは時間の経過と共により精錬されてゆくことになる。「釣り」の回数をこなすごとに、男よりも「穴」の数が多い女の方が「餌」として有能であることが判明し、そしてさらに体力がある「若い娘」の方がより「餌」として最適であることが判ったのだ。

そして今回、イビル・ワームを捕獲するために「餌」として用いられることになったのは、とある貴族邸に盗み目的で侵入し、捕まった、盗賊の娘であった。

彼女の名前はレベッカ・アニエスという。スラム出身の娘で、見た目から判断された年齢は十代後半。自分の仲間を養うため、繰り返し盗みを働いていたのだが、ささいなドジを踏んでしまい、ついに捕まったという按配であった。

レベッカは、スラム出身でありながらも端麗な容姿をしており、また、乳房や臀部が水準よりも大きかったことから、彼女を捕らえた貴族がレベッカのことを気に入り、彼女を自分の妾にしようとした。しかし、弱者から搾取する貴族のことを心底嫌っていたレベッカは、その提案を口汚い言葉で罵って拒否すると、あろうことか、貴族の顔に唾まで吐きかけたのであった。侮辱された貴族は怒り狂い、かくしてレベッカは、イビル・ワームを捕獲するための「生餌」とされたのであった。

続きは本編でお愉しみてください。